

建築家 鈴木エドワード氏

1947(昭和22)年～2019(令和元)年

狭山市入間川に生まれる。1971年米国ノートルダム大学卒業(建築学士)後、1974年バックミンスター・フラー&サダオ/イサム・ノグチスタジオに在籍。1975年ハーバード大学大学院修了(アーバンデザイン建築学修士)。授業半分をマサチューセッツ工科大学で受ける。1975年丹下健三都市建築設計事務所在籍後、1977年鈴木エドワード建築設計事務所設立。

2019年9月15日71歳で急逝。狭山市立入間川小学校2年生で新宿区に転居するまでの幼少期を自然豊かな狭山の稲荷山公園で過ごした。

終戦後、米車のディーラーであった両親と訪問した都内の高級住宅街との出会いが建築家への道に繋がったと語っている。ふるさと狭山を愛し、仕事の合間を縫って「狭山大茶会」、お花見、「入間川七夕まつり」などにも夫人を伴って度々訪れた。エコスクールの新生入間川小学校建設の際にも関わりがあったと語っていた。

代表作である「JRさいたま新都心駅舎」は通産省グッドデザイン賞他、彩の国さいたま景観賞、第9回ブルネル賞推薦賞など国内外で様々な賞を獲得した。常識を超えたデザインは正に圧巻である。今でもさいたま市の小学生が見学に訪れ、有機体のように流線的な駅舎に対し多くの興味と質問が寄せられている。鈴木の水と風と空気のデザイン哲学が子ども達にも伝えられ、地域に愛される駅の建築家として鈴木は今なお生きている。取材：荒川和子



ファッションデザイナー

津森千里(つもりちさと)氏

1954(昭和29)年～

狭山市入間川に生まれる。狭山市立入間川小学校高学年で漫画家になりたいと思うようになる。西中学校時代の体育祭で、スペインの闘牛をイメージして「カルメン」の衣装をプロデュースし、自分の服を作る。高校時代には「ビューティフルパンツ」を制作。「手に職を付けた方が、これからの女性の自立によい」という母の勧めに従い、1973(昭和48)年に文化服装学院に入学。無遅刻無欠席の優等生だった。卒業後、1977(同52)年に「イッセイミヤケインターナショナル」に入社し「イッセイスポーツ」のデザイナーとなり、その後「I.S.」のチーフデザイナーとなる。

1990(平成2)年、ファッションブランド「ツモリチサト」をスタート。2020(令和2)年にブランド30周年を迎える。手掛けるデザインは、洋服から靴、バッグ、時計、財布、パジャマ、小物等多岐にわたる。デザイン発想の源は、自分がどんなものを着たいか「自分が一番のお客様」から始まる。「子供心を忘れない」「楽しい」「可愛い」「これが欲しい」という直感でデザインする。型にはめ込むのではなくはみ出すこと。枠の中にいたら楽で無難だが人生は一度きり、だめなら変えてみようというポジティブシンキングで仕事をしている。

狭山市立西中学校50周年記念誌に「世界で活躍する卒業生」で紹介され、生徒に「自分の好きな事を見つけて、それに向かって進んでください。好きな事なら続けられます」とメッセージを送る。取材：小川豊子

